

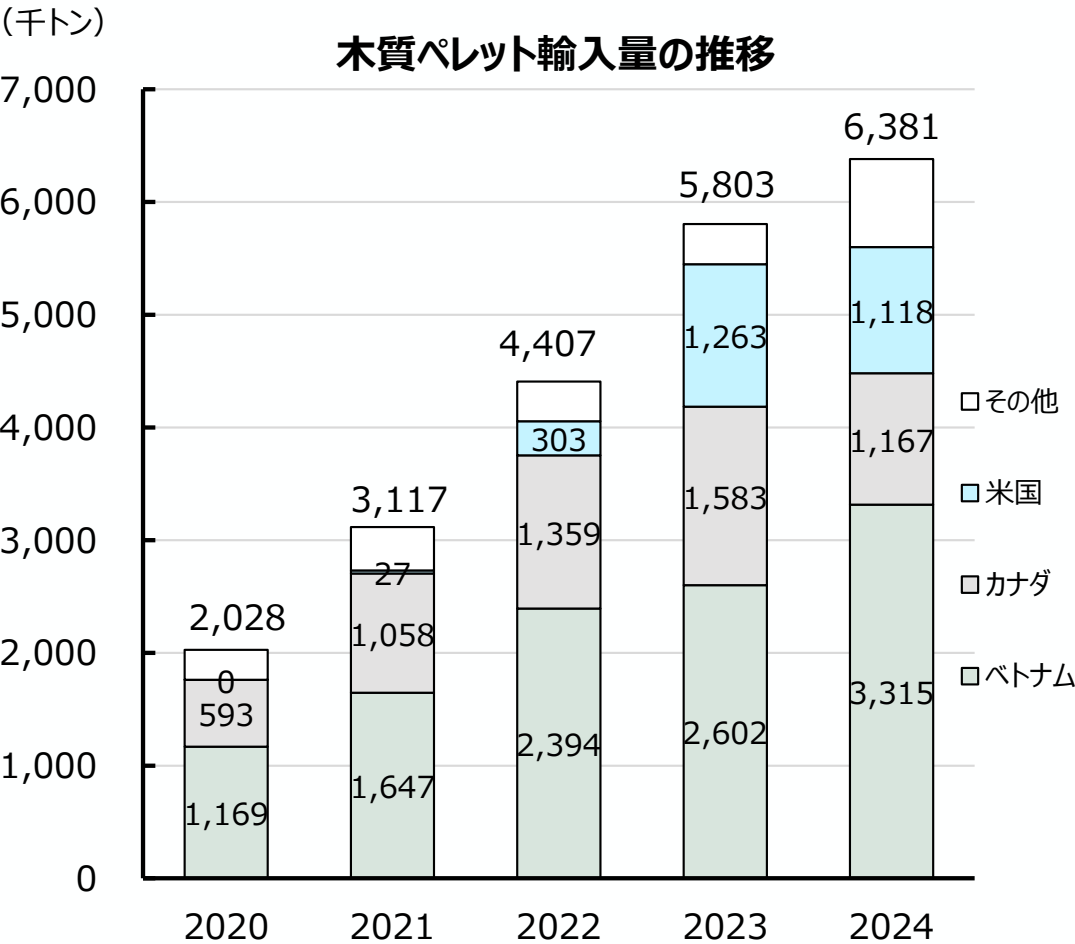
ライフサイクルGHG既定値の見直しについて

2025年10月

資源エネルギー庁

輸入木質バイオマスの加工工程に係るライフサイクルGHG既定値について

- 木質ペレット輸入量は増加傾向であり、東南アジアを中心として供給源の多様化がみられる。
- こうした状況を踏まえ、輸入木質バイオマスの加工工程に係るライフサイクルGHG既定値の見直しについて、ご議論いただきたい。



出典：2024年の木材輸入実績（令和7年3月 林野庁 木材貿易対策室から抜粋）

木質ペレット輸入量の内訳
(2024年)

輸入元	輸入量 (千トン)	割合
ベトナム	3,315	52%
カナダ	1,167	18%
米国	1,118	18%
マレーシア	403	6%
インドネシア	315	5%
その他	63	1%
合計	6,381	100%

出典：貿易統計（HSコード4401.31-000）

輸入木質バイオマスの加工工程に係るライフサイクルGHG既定値の見直し案

- 現状、輸入木質バイオマスの加工工程に係る既定値については、EUにおける既定値の扱いや確認の簡便性等を踏まえ、生産国によらず一律のLCA電力排出係数に基づき算定している。
- 一方、供給源の多様化を考慮すると、各生産国のLCA電力排出係数に基づき算定したほうが、自主的取組等を進める上で、利用実態を適切に反映できるものと考えられる。
- したがって、輸入木質バイオマスの加工工程に係る既定値については、各生産国のLCA電力排出係数に基づき算定することとしてはどうか。
※各生産国のLCA電力排出係数は、JRCが整理した電源別のLCA電力排出係数を、IEA統計に基づく各国の電源構成により加重平均した値を用いる。
※これらはパブリックコメントに付した上で、2026年度以降の計算に適用するものとして公表することとする。
※なお、既定値に適用するLCA電力排出係数は、各国の電源構成の動向等を踏まえ、必要に応じて見直すものとする。

輸入木質バイオマスの加工工程に係るライフサイクルGHG既定値の見直し案

生産国	LCA電力排出係数 [g-CO2eq/MJ-電力]	出典	(例) 輸入木質ペレットの加工工程 (乾燥工程にバイオマス利用) の ライフサイクルGHG既定値[g-CO2/MJ-燃料]	
			製材等残材	林地残材等 その他伐採木
現行の既定値	146.3	GREET2022 (アルゴンヌ国立研究所のLCAモデル)	5.18	9.66
見直し案	ベトナム	JRC (WELL-TO-WHEELS Report version 4.a) が整理した電源別のLCA電力排出係数を、IEA統計 (The World Energy Balances) に基づく各国の電源構成 (2019~2023年の直近5年平均) により加重平均した値	5.29	9.36
	カナダ		1.20	2.05
	米国		4.21	7.42
	マレーシア		6.57	11.64
	インドネシア		8.48	15.04

農産物の収穫に伴って生じるバイオマスに係るLCA電力排出係数の扱い

- 一部の**農産物の収穫に伴って生じるバイオマス**についても、**ライフサイクルGHG既定値の算定**において、系統電力の**LCA電力排出係数**を採用。
- 出典の一貫性や見直し作業の効率性等の観点から、これらについても、**輸入木質バイオマスと同じ方法で計算したLCA電力排出係数**を採用することとしてはどうか。

※計算方法や適用時期等については、前頁で述べた輸入木質バイオマスに係るライフサイクルGHG既定値の見直し案に同じ。

※EFBなどの新規燃料については現時点で調達・使用実績がないため、生産国等は今後の実績を踏まえ見直すものとする。

農産物の収穫に伴って生じるバイオマスに係るライフサイクルGHG既定値における LCA電力排出係数の見直し案

バイオマス／工程	生産国	現行の既定値における LCA電力排出係数 [g-CO ₂ eq/MJ-電力] 出典：GREET2022	見直し案 出典：JRCのLCA電源別排出係数と IEAの電源構成により計算
CPO加工工程（搾油） CPO精製工程	インドネシア	238.7	246.79
パームトランク加工工程（造粒） EFB加工工程（洗浄・破碎・造粒） カシューナッツ殻油加工工程（前処理・加水分解等） カシューナッツ殻加工工程（搾油）	マレーシア	—	190.16
ナッツ殻類加工工程（造粒） コーンストロー加工工程（破碎・造粒）	中国	193.17	184.89